

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-30	高等学校	地理歴史科	世界史 B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	世 B313	新世界史 改訂版		

## 1. 編修の基本方針

- (1)平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「世界史 B」の目標、内容、内容の取扱いの趣旨に従い、幅広く世界史の知識を学び、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことができるよう編修した。
- (2)本書は 4 単位ないしはそれ以上の単位で授業をおこなう高等学校で使用されることを前提として編修したが、個々の事象を網羅的に記述するのではなく、できごとの相互連関や意味が明確に理解できるように配慮して叙述した。したがって、随所にコラムを設けて、世界史を学ぶうえで重要な事項や概念を丁寧に解説し、たんなる知識の習得にとどまらず、現代の世界のあり方を主体的に考えることができるようにした。
- (3)学習指導要領世界史 B の内容である「世界史への扉」「諸地域世界の形成」「諸地域世界の交流と再編」「諸地域世界の結合と変容」「地球世界の到来」の趣旨に従って、部・章を構成した。
- (4)世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目し、各地域世界の叙述の冒頭に風土を簡潔にのべた。また日本の歴史の位置づけに留意し、日本の歴史と世界の歴史の相互の関連に配慮する項目を置いた。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界史への扉 ①自然環境と人類の関わり 水・土地・都市 ②日本の歴史と世界の歴史のつながり japan と japonisme ③日常生活にみる世界の歴史 砂糖・茶・コーヒー	*冒頭に「世界史を学ぶ」を設け、生徒に世界史を学ぶことの意味をわかりやすく説明し、つづく「世界史への扉」とともに、世界史学習の導入となるようにした(第 1 号)。 *「世界史への扉① 自然環境と人類の関わり」において、環境問題の重要性を提示した(第 4 号)。 *「世界史への扉② 日本の歴史と世界の歴史のつながり」において、世界の歴史における日本の位置を明確にし、国際社会における日本の役割を自覚できるようにした(第 5 号)。	1～3 ページ 8～9 ページ 10～11 ページ
序章 先史時代 第 I 部 テーマ 第 1 章 オリエン特と古代ギリシア 1 古代オリエン特	*世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目して、西アジア・地中海、南アジア・東南アジア・オセアニア、東アジア・内陸アジア、アフリカ・	22～23 ページ, 54～55 ページ, 61～64 ページ, 76 ページ, 78 ページ

<p>2 古代ギリシア</p> <p>3 ヘレニズム時代</p> <p>第2章 古代ローマと西アジア</p> <p>1 ローマの発展と帝国形成</p> <p>2 ローマ帝国の繁栄とキリスト教</p> <p>3 ローマ帝国の衰退</p> <p>4 西アジアの諸王朝</p> <p>第3章 南アジア・東南アジアとオセアニア</p> <p>1 古代の南アジア</p> <p>2 古代の東南アジア</p> <p>3 古代のオセアニア</p> <p>第4章 東アジア・内陸アジア</p> <p>1 東アジア・内陸アジアの風土と人々</p> <p>2 中国の初期王朝</p> <p>3 秦漢帝国</p> <p>4 北方ユーラシアの動向</p> <p>第5章 アフリカと南北アメリカ</p> <p>1 古代のアフリカ</p> <p>2 古代の南北アメリカ</p> <p>第I部 まとめ</p> <p>主題学習Ⅰ 時間軸からみる諸地域世界</p>	<p>南北アメリカ、それぞれの風土について、該当地域の冒頭で簡潔に述べた（第1号）。</p> <p>* 主題学習「時間軸からみる諸地域世界」のなかで具体的主題を設け、生徒の主体的な追究を通して、これらについて歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。</p>	<p>82～83ページ</p>
<p>第II部 テーマ</p> <p>第6章 東アジア・内陸アジア諸地域の動向</p> <p>1 分裂と融合の時代</p> <p>2 隋唐帝国と東アジア</p> <p>3 宋と周辺諸国</p> <p>4 モンゴル帝国</p> <p>第7章 西アジア諸地域の動向</p> <p>1 イスラーム教の誕生とカリフの政権</p> <p>2 政治と文化の多元化</p> <p>第8章 南アジア・東南アジア諸地域の動向</p> <p>1 南アジア社会の新展開</p> <p>2 東南アジア社会の形成</p> <p>第9章 ヨーロッパの形成</p> <p>1 古代から中世へ</p> <p>2 カール大帝とヨーロッパ</p> <p>3 教皇権の確立と十字軍</p> <p>4 ヨーロッパの膨張と成熟</p> <p>5 ヨーロッパの危機と再生</p> <p>第II部 まとめ</p> <p>主題学習Ⅱ 空間軸からみる諸地域世界</p>	<p>* 世界史学習における地理的条件との関連を図ることの重要性に着目して、ヨーロッパの風土について、該当地域の冒頭で簡潔に述べた（第1号）。</p> <p>* 主題学習「空間軸からみる諸地域世界」のなかで具体的主題を設け、生徒の主体的な追究を通して、これらについて歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。</p>	<p>128～129ページ</p> <p>166～167ページ</p>
<p>第III部 テーマ</p> <p>第10章 大交流・大交易の時代</p> <p>1 ユーラシア諸地域を結ぶネットワーク</p>	<p>* 第III部解説「近世日本の対外関係」において、世界の歴史における日本の位置を明確にし、国際社会における日本の役割を自</p>	<p>202ページ</p>

<p>2 東方航路の開拓と大西洋世界の出現</p> <p>3 世界の一体化の進展</p> <p>第11章 東アジア・東南アジア諸地域の動向</p> <p>1 明代の朝貢世界</p> <p>2 大交易の時代の東アジア・東南アジア</p> <p>3 清代支配の拡大</p> <p>4 清朝の隣接諸地域</p> <p>第12章 西アジア・南アジア諸地域の動向</p> <p>1 オスマン朝</p> <p>2 サファヴィー朝とムガル朝</p> <p>第13章 ヨーロッパの成長</p> <p>1 近世の始まり</p> <p>2 宗教改革</p> <p>3 主権国家体制の成立</p> <p>4 オランダの覇権から英・仏の抗争へ</p> <p>5 北欧・東欧の動向</p> <p>6 理性と啓蒙の時代</p> <p>第Ⅲ部 まとめ</p> <p>主題学習Ⅲ 図像資料から読みとく世界の歴史</p>	<p>覚できるようにした（第5号）。</p> <p>* 主題学習「図像資料から読みとく歴史の世界」のなかで具体的主題を設け、生徒の主体的な追究を通して、これらについて歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。</p> <p>* 「主題学習」などで、異文化と接触する際に考慮すべき視点を提示した（第3号）。</p>	<p>244～245ページ</p> <p>244～245ページ</p>
<p>第Ⅳ部 テーマ</p> <p>第14章 革命の時代のヨーロッパ・アメリカ</p> <p>1 商業社会と産業革命</p> <p>2 アメリカ革命</p> <p>3 フランス革命とナポレオン</p> <p>4 反動と改革</p> <p>第15章 ナショナリズムの時代のヨーロッパ</p> <p>1 1848年の諸革命</p> <p>2 イギリスとフランスの繁栄</p> <p>3 クリミア戦争とヨーロッパの再編</p> <p>第16章 入植と移民による新国家の建設</p> <p>1 アメリカ合衆国の発展</p> <p>2 ラテンアメリカとカナダ・オーストラリア・ニュージーランド</p> <p>第17章 アジア諸地域の動揺</p> <p>1 西アジアの動揺</p> <p>2 南アジア・東南アジアの動揺</p> <p>3 東アジアの動揺</p> <p>第Ⅳ部 まとめ</p> <p>主題学習Ⅳ 文字資料から読みとく世界の歴史</p>	<p>* 第Ⅳ部の「テーマ」「解説」や本文のなかで、進歩の概念を相対化して人種や男女の平等に関わる課題を提示し、また人権についての意識を高めるよう促した（第3号）。</p> <p>* 各部末の主題学習「文字資料から読みとく歴史の世界」のなかで具体的主題を設け、生徒の主体的な追究を通して、これらについて歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。</p>	<p>246～249ページ、256ページ、278ページ</p> <p>318～319ページ</p>
<p>第Ⅴ部 テーマ</p> <p>第18章 帝国主義と世界</p> <p>1 現代社会の特質</p> <p>2 帝国主義と列強</p>	<p>* 第Ⅴ部「テーマ」や本文のなかで、2度の世界大戦をへて、さまざまな努力により平和な世界をめざしているという理解を促す内容を提示した（第3号）。</p>	<p>320～323ページ、350ページ、386ページ、416ページ</p>

3 アジアの民族運動	* 第V部解説「アジアの民族運動と日本」「二つの和解の試み」および「まとめ」など、世界の歴史における日本の位置を明確にし、国際社会における日本の役割を自覚できるようにした（第5号）。	343 ページ, 416 ページ, 430 ~ 431 ページ
第19章 二つの世界大戦		
1 第一次世界大戦とロシア革命		
2 ヴェルサイユ体制と欧米諸国		
3 アジアの動向		
4 世界恐慌とファシズム	* 第V部本文において、環境問題の重要性を提示した（第4号）。	424 ~ 426 ページ
5 第二次世界大戦		
第20章 冷戦と第三世界の独立	* 主題学習「資料を活用して探究する地球世界の課題」のなかで具体的主題を設け、生徒の主体的な探究を通して、これらについて歴史的視野からの認識を深めさせることができるよう留意した（第2号）。	432 ~ 435 ページ
1 東西対立の始まり		
2 アジアにおける冷戦と中東での展開		
3 第三世界自立の模索と社会主義圏の動揺		
4 超大国の動揺と第三世界の動向		
5 新冷戦と冷戦の終結		
第21章 今日の世界		
1 超大国アメリカの外交		
2 EUの実験とロシアの動向		
3 中東・アフリカ・ラテンアメリカの動向		
4 アジアの発展と新たな課題		
5 現代文明とグローバル化		
第V部 まとめ		
主題学習V 資料を活用して探究する地球社会の課題		

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (1) 生徒が考えながら学ぶことを目的に、用語に頼らない、読んで理解しやすい明晰な叙述に努め、太字（ゴシック体の文字）の使い方も工夫した。また振り仮名や参照ページなども丁寧に挿入し、生徒が自主的に学習できるよう努めた。
- (2) 歴史地図はカラーユニバーサルデザインも考慮して可能な限り読図しやすくするように配慮した。
- (3) 図版は、本文の記述に即して参照できるように配慮した。また、生徒が関心をもって学習できるように丁寧な説明を付した。
- (4) 各叙述については、学習に支障をきたさないかぎり、学界での最新の研究動向を紹介し、歴史を相対的に理解できるように努めた。
- (5) 各部の冒頭に「テーマ」を設け、その部で取扱う時代の特徴や留意すべき視点を明示して、学習の動機付けをおこない、また各部の末に「まとめ」と「主題学習」を置いて、各部で学んだ内容を整理し、「主題学習」への取り組みを促して、生徒が主体的に学習できるように配慮した。
- (6) 「世界史への扉」の内容は、世界史学習の導入にあたることを考慮して、生徒が興味・関心をもてるテーマを選び、平易に記述した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-30	高等学校	地理歴史科	世界史 B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	世 B313	新世界史 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1) 全体を古代・中世・近世・近代・現代の5部構成とし、第Ⅰ部（古代）では、おのおの固有の文化的特徴をもつ諸地域世界の形成を、第Ⅱ部（中世）では、諸地域世界の交流と新たな地域世界の形成にともなう地域世界の再編を、第Ⅲ部（近世）では、アジアの繁栄とヨーロッパの成長による世界の一体化を、第Ⅳ部（近代）では、欧米社会の変革とそれにとともなう世界の構造化の過程を、第Ⅴ部（現代）では、2度の大戦と冷戦を経験した世界が直面する地球世界の課題を、明確な視点をもって叙述することに努めた。
- (2) その際、各部の「テーマ」で視点を示し、「まとめ」で各時代の特徴を空間的な広がりを意識しながら確認した。また「主題学習」では具体的な課題を例示し、生徒が自ら考える力を養うことができるよう配慮した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
世界史への扉 ①自然環境と人類の関わり 水・土地・都市 ②日本の歴史と世界の歴史のつながり japan と japonisme ③日常生活にみる世界の歴史 砂糖・茶・コーヒー	(1) 世界史への扉 ア 自然環境と人類のかかわり イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史	8～13 ページ	3
序章 先史時代 第Ⅰ部 テーマ 第1章 オリエン特と古代ギリシア 1 古代オリエン特 2 古代ギリシア 3 ヘレニズム時代 第2章 古代ローマと西アジア 1 ローマの発展と帝国形成 2 ローマ帝国の繁栄とキリスト教 3 ローマ帝国の衰退 4 西アジアの諸王朝 第3章 南アジア・東南アジアとオセアニア 1 古代の南アジア 2 古代の東南アジア	(2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア世界・地中海世界  イ 南アジア世界・東南アジア世界	14～83 ページ	1 1 5  5  2

3 古代のオセアニア			
第4章 東アジア・内陸アジア	ウ 東アジア世界・内陸アジア世界		5
1 東アジア・内陸アジアの風土と人々			
2 中国の初期王朝			
3 秦漢帝国			
4 北方ユーラシアの動向			
第5章 アフリカと南北アメリカ			1
1 古代のアフリカ			
2 古代の南北アメリカ			
第I部 まとめ			1
主題学習Ⅰ 時間軸からみる諸地域世界	エ 時間軸からみる諸地域世界		
第II部 テーマ	(3) 諸地域世界の交流と再編	84 ~ 167 ページ	1
第7章 西アジア諸地域の動向	ア イスラーム世界の形成と拡大		4
1 イスラーム教の誕生とカリフの政権			
2 政治と文化の多元化			
第8章 南アジア・東南アジア諸地域の動向			2
1 南アジア社会の新展開			
2 東南アジア社会の形成			
第9章 ヨーロッパの形成	イ ヨーロッパ世界の形成と展開		12
1 古代から中世へ			
2 カール大帝とヨーロッパ			
3 教皇権の確立と十字軍			
4 ヨーロッパの膨張と成熟			
5 ヨーロッパの危機と再生			
第6章 東アジア・内陸アジア諸地域の動向	ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界		7
1 分裂と融合の時代			
2 隋唐帝国と東アジア			
3 宋と周辺諸国			
4 モンゴル帝国			
第II部 まとめ			1
主題学習Ⅱ 空間軸からみる諸地域世界	エ 空間軸からみる諸地域世界		
第III部 テーマ	(4) 諸地域世界の結合と変容	168 ~ 319 ページ	1
第10章 大交流・大交易の時代	ア アジア諸地域の繁栄と日本		4
1 ユーラシア諸地域を結ぶネットワーク			
2 東方航路の開拓と大西洋世界の出現			
3 世界の一体化の進展			
第11章 東アジア・東南アジア諸地域の動向			6
1 明代の朝貢世界			
2 大交易の時代の東アジア・東南アジア			
3 清代支配の拡大			
4 清朝の隣接諸地域			
第12章 西アジア・南アジア諸地域の動向			3
1 オスマン朝			
2 サファヴィー朝とムガル朝			

<p>第13章 ヨーロッパの成長</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 近世の始まり</li> <li>2 宗教改革</li> <li>3 主権国家体制の成立</li> <li>4 オランダの覇権から英・仏の抗争へ</li> <li>5 北欧・東欧の動向</li> <li>6 理性と啓蒙の時代</li> </ol> <p>第III部 まとめ</p>	<p>イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界</p>		<p>10</p> <p>1</p>
<p>第IV部 テーマ</p> <p>第14章 革命の時代のヨーロッパ・アメリカ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 商業社会と産業革命</li> <li>2 アメリカ革命</li> <li>3 フランス革命とナポレオン</li> <li>4 反動と改革</li> </ol> <p>第15章 ナショナリズムの時代のヨーロッパ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 1848年の諸革命</li> <li>2 イギリスとフランスの繁栄</li> <li>3 クリミア戦争とヨーロッパの再編</li> </ol> <p>第16章 入植と移民による新国家の建設</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アメリカ合衆国の発展</li> <li>2 ラテンアメリカとカナダ・オーストラリア・ニュージーランド</li> </ol> <p>第17章 アジア諸地域の動揺</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 西アジアの動揺</li> <li>2 南アジア・東南アジアの動揺</li> <li>3 東アジアの動揺</li> </ol> <p>第IV部 まとめ</p> <p>主題学習Ⅲ 図像資料から読みとく世界の歴史</p> <p>主題学習Ⅳ 文字資料から読みとく世界の歴史</p>	<p>ウ 産業社会と国民国家の形成</p> <p>エ 世界市場の形成と日本</p> <p>オ 資料からよみとく歴史の世界</p>		<p>1</p> <p>7</p> <p>5</p> <p>3</p> <p>7</p> <p>1</p>
<p>第V部 テーマ</p> <p>第18章 帝国主義と世界</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会の特質</li> <li>2 帝国主義と列強</li> <li>3 アジアの民族運動</li> </ol> <p>第19章 二つの世界大戦</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第一次世界大戦とロシア革命</li> <li>2 ヴェルサイユ体制と欧米諸国</li> <li>3 アジアの動向</li> <li>4 世界恐慌とファシズム</li> <li>5 第二次世界大戦</li> </ol> <p>第20章 冷戦と第三世界の独立</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 東西対立の始まり</li> </ol>	<p>(5) 地球世界の到来</p> <p>ア 帝国主義と社会の変容</p> <p>イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現</p> <p>ウ 米ソ冷戦と第三世界</p>	<p>320 ～ 435 ページ</p>	<p>1</p> <p>7</p> <p>13</p> <p>10</p>

2 アジアにおける冷戦と中東での展開			
3 第三世界自立の模索と社会主義圏の動揺			
4 超大国の動揺と第三世界の動向			
5 新冷戦と冷戦の終結			
第21章 今日の世界	エ グローバル化した世界と日本		7
1 超大国アメリカの外交			
2 EUの実験とロシアの動向			
3 中東・アフリカ・ラテンアメリカの動向			
4 アジアの発展と新たな課題			
5 現代文明とグローバル化			
第V部 まとめ			2
主題学習V 資料を活用して探究する地球社会 の課題	オ 資料を活用して探究する地球 世界の課題		
		計	140